

中国春節のお茶事情



明山茶業株式会社 社長
取締役 中国室 張文昕

1988年上海より来店。名門中国料理店を経て現職。勤務を経て現職。生涯学習講師、中国茶高級評茶員。特技は卓球、イラスト。好きな食べ物は、大戸屋の魚定食。

今年も、民族大移動が見られると思いきや!?

2021年2月11~17日、中国では1年の中で、もっとも重要な祝日「春節」を迎えます。長い休みを満喫するため、多くの国民は一家団欒のために帰省をしたり、中国国内外の人気のエリアへ旅行をしたりします。この時期は、20億人近い人たちが飛行機、電車、車、船などを使い、いわゆる「民族大移動」をする光景はこの時期の風物詩といってもよいでしょう。

ところが、新型コロナウイルス感染症により（以下、コロナウイルス）、これまでに見たことがないほど、今年は様子が違いました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中国政府は国民に春節期間中の旅行や帰省の自粛を要請。とはいえ、強制ではなく、自粛で済んだので、きつと相当数の人が出かけると私は思っていました。

た。実際、2021年1月には、中国交通運輸省が春節を挟む40日間に延べ約17億人が移動すると予測していたほどでした。

自粛要請に応じたのは補助金の影響か!?

しかし終わってみれば、春節期間中の空港や高速鉄道駅はガラガラで、国内旅行と帰省の人数は例年より大幅にダウン。大都市でも、混雑風景はまったく見られませんでした。春節休暇の帰省者が大幅に減ったことで、中国政府が掲げていた、春節時期の移動を減らし、コロナウイルス感染者増加を抑えるという目標は達成できたと言えます。今回、中国の国民が自粛に協力的だったのは、行政が多くの補助金を投入したのが理由の一つと専門家は指摘しています。各州の財政状況にもよりますが、人口が集中している北京、上海、広州などの大都市では、かなりの補助金も

個人向けのお茶の売り上げが急増

らえた友人は言っていました。

取引のある上海のお茶輸出会社のオーナーと春節の挨拶を交わしたとき、春節期間中は個人向けに小分けしたお茶や、贈呈用のお茶の販売が急激に増え、その会社は春節期間中は休む暇もなく仕事をしていると驚きでした。

コロナウイルスの影響で経済活動が鈍化し、春節期間中の移動も自粛。中国経済はどうなってしまうのか心配でした。ところが、地元での買い物の需要はかなり増え、追いつかないほど盛況だったと、さまざまな業種の方から聞きました。上海の配達員は休む間もなく配達に追われ、



贈呈用はパッケージもおしゃれ

疲れて道端で寝る姿をとらえた画像や動画が、たびたびSNSに投稿されていたほどです。

個人消費に着目した商品が延びている背景

本来、春節の間は、親戚や友人への挨拶まわりをしたり、大勢の人が一緒に食事するのが慣例でしたが、一昨年も今年もまったくできませんでした。その分、普段は買わない高価格&高品質のものを買って、自分へご褒美する。親戚や友人には、挨拶の代わりに贈り物をする人も増えたそうです。

前述の上海の会社だけでなく、中国の取引先からは、個人用サイズのお茶、贈呈用のお茶は例年の倍以上売れたと聞きました。コロナの終息が長引く場合、お茶の売り上げは今年の春節期間中のような現象が続くかもしれません。

コロナウイルスの影響で、人々の消費行動や購買内容に変化が生じており、さまざまな業種が大きな転換期を迎えています。消費者のリアルな消費行動・購買内容の変化につねにアンテナを張り、そのときどきのニーズに合った製品を開発・販売していきたいと思っています。